

船上の聖餐式

シリーズ～続 福音の力～

2021/11/14

先週までのおさらい

- ローマ総督フェリクスの前での弁明(24章)
 - 「疫病のような人間」と呼ばれる
 - その後2年間、何度も信仰について話す
- 新総督フェストゥス着任(25章)
 - 祭司長たちはパウロをエルサレムに送り返すよう訴えるが、フェストゥスは却下
 - パウロ、改めて皇帝に上訴する
- フェストゥスとアグリッパ王の前で証言(26章)
 - イスラエル北部の統治を許されていた
 - 回心について語り、信仰を勧める
 - ローマ行きが決定する

使徒言行録 27章8～37節

ようやく島(クレタ島)の岸に沿って進み、ラサヤの町に近い「良い港」と呼ばれる所に着いた。かなりの時がたって、既に断食日も過ぎていたので、航海はもう危険であった。それで、パウロは人々に忠告した。「皆さん、わたしの見るところでは、この航海は積み荷や船体ばかりでなく、わたしたち自身にも危険と多大の損失をもたらすことになります。」しかし、百人隊長は、パウロの言ったことよりも、船長や船主の方を信用した。…ときに、南風が静かに吹いて来たので、人々は望みどおりに事が運ぶと考えて錨を上げ、クレタ島の岸に沿って進んだ。しかし、間もなく「エウラキロン」と呼ばれる暴風が、島の方から吹き降ろして来た。

…しかし、ひどい暴風に悩まされたので、翌日には人々は積み荷を海に捨て始め、三日目には自分たちの手で船具を投げ捨ててしまった。幾日もの間、太陽も星も見えず、暴風が激しく吹きすさぶので、ついに助かる望みは全く消えうせようとしていた。人々は長い間、食事をとっていなかった。そのとき、パウロは彼らの中に立って言った。「皆さん、わたしの言ったとおりに、クレタ島から船出していなければ、こんな危険や損失を避けられたにちがいありません。しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです。わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、こう言われました。『**パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海している**

すべての者を、あなたに任せてくださったのだ。』ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。わたしたちは、必ずどこかの島に打ち上げられるはずですよ。」十四日目の夜になったとき、わたしたちはアドリア海を漂流していた。真夜中ごろ船員たちは、どこかの陸地に近づいているように感じた。そこで、水の深さを測ってみると、二十オルギアあることが分かった。もう少し進んでまた測ってみると、十五オルギアであった。船が暗礁に乗り上げることを恐れて、船員たちは船尾から錨を四つ投げ込み、夜の明けるのを待ちわびた。ところが、船員たちは船から逃げ出そうとし、船首から錨を降ろす振りをして小舟を海に降ろしたので、

パウロは百人隊長と兵士たちに、「あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助からない」と言った。そこで、兵士たちは綱を断ち切って、小舟を流れるにまかせた。夜が明けかけたころ、パウロは一同に食事をするように勧めた。「今日で十四日もの間、皆さんは不安のうちに全く何も食べずに、過ごしてきました。だから、どうぞ何か食べてください。生き延びるために必要だからです。あなたがたの頭から髪の毛一本もなくなることはありません。」こう言ってパウロは、一同の前でパンを取って神に感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めた。そこで、一同も元気づいて食事をした。船にいたわたしたちは、全部で二百七十六人であった。

ローマに向けて船出するパウロ

- 百人隊長ユリウスとその部下が護衛した
 - 「ユリウスはパウロを親切に扱い」
- パウロー人ではなかった
 - ルカも、マケドニア人アリストアルコも一緒だった
- 思うように進まない航海
 - カイサリア>シドン>リキア州ミラ(船を乗り継ぐ)
>西進を諦め南下してクレタ島へ>「良い港」
- 囚人パウロの忠告
 - 「この航海は積み荷や船体ばかりでなく、わたしたち自身にも危険と多大の損失をもたらすことになります。」<航海には危険な時期に入っていた



クレタ島

フェニクス

ミラ

シドン

良い港

カイサリア

古い伝説では、パウロはローマへの旅の
中海世界を広く旅して回ったとあ

第3次伝道旅行の出発点

ローマへの旅の出発点 カイサリア

「エウラキロン」に襲われる

- パウロの忠告を無視して船出する
 - クレタ島の西、フェニクス港を目指した
- 「エウラキロン」と呼ばれる暴風に襲われる
 - 出港時には静かな南風だったが、突然北からの風が変わった・その後3日間暴風が続いた
 - 地中海に発生する台風の可能性は薄い
- 暴風に悩まされ、積み荷を投げ捨てる
 - 「しかし、ひどい暴風に悩まされたので、翌日には人々は積み荷を海に捨て始め、三日目には自分たちの手で船具を投げ捨ててしまった。」
 - パウロの預言通りになった



2020年地中海で発生した台風(メディケーン)

励ましつつ証しする囚人パウロ

- 必ず助かるから大丈夫
 - 「船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はない」
- 「礼拝している神からの天使」のお告げ
 - 「パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならない。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ。」
- 元気を出そう！
 - 「ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。」

船員が逃げ出そうとする

- 漂流14日目の夜、陸地に近づく
 - 水の深さが浅くなっていった
 - 暗礁に乗り上げるのを恐れ、錨を降ろす
- 船員が小舟で逃げ出そうとする
 - 「船員たちは船から逃げ出そうとし、船首から錨を降ろす振りをして小舟を海に降ろした」
- 囚人パウロが助言して止めさせる
 - 「パウロは百人隊長と兵士たちに、『あの人たちが船にとどまっていなければ、あなたがたは助からない』と言った。そこで、兵士たちは綱を断ち切って、小舟を流れるにまかせた。」

船上の聖餐式

- 食事をするように勧める囚人パウロ
 - 「今日で十四日もの間、皆さんは不安のうちに全く何も食べずに、過ごしてきました。だから、どうぞ何か食べてください。」
- まるで**聖餐式**のようにパンを裂く囚人パウロ
 - 「パウロは、一同の前でパンを取って神に**感謝の祈りをささげてから、それを裂いて食べ始めた。**」
 - 「主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、**感謝の祈りをささげてそれを裂き**」コリントー11:23-24
- 276人全員、無事に陸に上がる
 - 「そこで、一同も元気づいて食事をした。」

囚人パウロに見習う

- 置かれている状況に左右されない
 - 囚われの身であることを何とも思っていない
- 突然の嵐に遭っても恐れない
 - 木の船ではなく神の御手の中にあるのだから
- 常に神を認める
 - 「あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」
箴言3:6(新改訳)
- 神に感謝をささげる時、臨在が訪れる
 - 朝起きたとき・食事の時・歩くとき・働くとき・語るとき・眠るとき>元気がでます！